

株式会社ディーアンドエムホールディングス

営業担当者の分析／レポートと技術担当者向けの有害物質検索／集計処理にも Dr.Sum EA を活用

Interview



株式会社ディーアンドエムホールディングス IT 部マネージャー 中島 俊夫氏

Company Profile

株式会社ディーアンドエムホールディングス

設立：2002年5月14日
所在地：神奈川県川崎市
事業内容：ホームシアター、自動車、オフィスからプロの携わる放送局やレコーディングスタジオまで、プレミアム AV ブランドの製品ポートフォリオを展開。
URL：
<http://www.dm-holdings.com/jp/>

D&M

使い慣れた Excel での分析が好評

高い生産性の開発環境も高く評価

ERP やクラウドメールの採用など先進の IT 活用に積極的に取り組む D&M

株式会社ディーアンドエムホールディングス（以下、D&M）は 2002 年 5 月、デノンおよび日本マランツの経営統合により誕生した。その後、マッキントッシュ・ラボラトリー、エシセント、ボストン・アコースティックスなどを次々と買収し、マルチ・ブランドで事業展開。革新的なホームシアターから高度な仕様の業務用機器まで、幅広いユーザーを対象とした、高音質、高画質のオーディオ／ビジュアル（AV）製品を提供している。

同社は会社の設立時に、それまで利用していた基幹システムをカスタマイズするのではなく、SAP R/3 および必要な機能を一括で導入するビッグバン方式による新基幹システムを構築。2009 年 1 月には SAP ERP 6.0 へバージョンアップしたほか、メール環境としてクラウドメールをいち早く採用するなど、最先端の IT 活用に積極的に取り組んでいる。

Dr.Sum EA は ERP のデータを使った分析／レポート環境の充実を図ること目的に、2005 年 6 月に導入された。

D&M の IT 部マネージャーである中島俊夫氏は、「Dr.Sum EA は、主に各営業所の営業担当者や所長などが、SAP ERP から取り込まれたデータを使って、品目別の売上や在庫照会、営業所別の売上実績、販売速報や倉庫在庫のほか、経理の予算実績管理などの集計業務やレポートの作成に幅広く使用されています。」と話す。

Dr.Sum EA はまた、AV 製品を構成する部品に含まれている禁止物質の含有量などのデータも蓄積されており、欧州の RoHS（ローズ）* 指令に準拠していることを証明するための適合証明書を作

成にも利用されている。

この仕組みも SAP ERP で管理されているデータを製造業向けの環境管理用パッケージソフトで処理し、さらにそのデータを Dr.Sum EA に取り込んで分析およびレポートすることが可能となっている。

分析／レポート環境構築の課題を克服 アドオンを使わない方針も導入の背景

D&M が Dr.Sum EA の導入を決めた背景を中島氏は、「分析やレポート環境の充実を図るためには、さまざまな要件を満たすための仕組みが必要でした」と話す。利用者が使いやすいインターフェイスを備えていること、そして利用人数の多さからは、ライセンスに関する費用といった課題もあげられていた。

また、同社の SAP ERP の導入においては、「基本的にアドオンは行わず、周辺システムを別に開発して連携するという方針が決定していたことも大きな理由のひとつでした」と話す。

この方針に沿った仕組みとしては、エス・アイ・サービス（以下、SIS）の ConnectPlus を採用して接続したシステムが採用されている。工場の担当者がハンディスキャナでバーコードを読み取ること在庫情報を SAP ERP に転送するバーコード実績収集システムで、これによって、アドオン機能を使用することなくデータ連携を可能としている。

ConnectPlus は、SAP ERP のデータ連携をおこなうアダプタ製品であり、D&M では部品 Web 受注システムにおいても同製品を採用している。この ConnectPlus とのデータ連携のしやすさが Dr.Sum EA 導入を後押しした。

中島氏は、「Dr.Sum EA は、機能面でも、価格

導入背景

- 分析／レポート環境の充実・強化
- SAP ERP アドオン機能以外の方法の採用
- ERP や他データベースの集計業務効率化

導入ポイント

- 高い機能性と性能
- 容易な開発環境
- 広く利用できるサーバライセンス
- 使いやすいインターフェイス
- 明確な価格設定
- SVF の導入実績による製品の評価

導入効果

- サーバライセンスで導入コストを削減
- 使い慣れた Excel でデータの分析が可能
- レポートが数日から瞬時に
- アクセス権限などセキュリティ管理の充実

面でも、分析／レポート環境の実現に求めるぴったりの製品でした。また Dr.Sum EA と ConnectPlus の組み合わせは、デモ導入も可能で導入障壁が低く、迷わず採用を決定しました」と話している。

Dr.Sum EA による分析／レポート環境は、SIS によるオンサイトでのコンサルティングを受け、IT グループの担当者が利用者の要望を聞きながら開発した。中島氏は、「自分たちで簡単にレポートが作成できる Dr.Sum EA の容易な開発環境は非常に便利でした」と話す。

Dr.Sum EA はまた、日ごろ使い慣れた Excel でデータの分析が可能のほか、Dr.Sum EA Datalizer を導入することで、データをブラウザから集計できる仕組みを容易に実現できることも評価されている。

中島氏は、「他社製品とも比較しましたが、使い勝手もパフォーマンスも Dr.Sum EA の方が優れていましたし、価格設定も明確でした。また、SAP ERP の導入時に帳票システムとして SVF を導入した実績もあり、以前からウイングアークの製品については高く評価していたことも Dr.Sum EA を採用した理由のひとつでした」と話している。

レポート環境が数日から瞬時に好評の Dr.Sum EA、全社展開も視野に

Dr.Sum EA を導入した効果の中島氏は、次のように語る。「利用者は Dr.Sum EA Datalizer で作成した画面で情報を参照し、必要であれば Excel にダウンロードして加工するという使い方を使います。Dr.Sum EA のレポートはもちろん、Dr.Sum EA Datalizer で作成したウェブ画面も利用者から使いやすいと好評です」

Dr.Sum EA を導入する前は、担当者が SAP ERP から必要なデータを抽出し、Excel で集計してレポートを作成していたため、レポートの作成に数日が必要だった。しかし、Dr.Sum EA を導入したことで、使い慣れた Excel のインターフェイスを使いながらデータの活用が可能になり、その場でレポートが作成できるようになった。

さらにサーバライセンスで導入できる Dr.Sum EA は、利用者数を気にすることなく使用することも導入した効果のひとつ。現在、225 ユーザーが利用しているが、クライアントライセンスの製品に比べ導入コストを大幅に削減できた。そのほか Dr.Sum EA では、利用者ごとにアクセス権限を設定できるので、LDAP 認証によるパスワード管理を含めてセキュリティ管理も容易になっている。

前述した RoHS 指令の有害物質検索への Dr.Sum EA の応用について、「AV 製品はひとつで数千点の部品を使用しているため、手作業で RoHS に対応した適合証明書を作成するのは非常に困難でした。しかし、Dr.Sum EA を利用することで、数日かかっていた禁止物質のレポート作成が瞬時にできるようになりました」と話している。

また、今後の展望について中島氏は、「現在、Dr.Sum EA を利用しているのは、主に営業系の担当者と技術系系の担当者です。そこで今後は、利用範囲を全社レベルに広げていきたいと考えています」と話す。

※ RoHS (ローズ) : 電子・電気機器における特定有害物質の使用制限についての欧州連合 (EU) による指令で、構成部材で鉛や水銀など 6 物質含有率を指定の数値以下にする必要がある。



導入製品

Dr.Sum EA

大容量のデータを部署間や全社規模で集計分析するための多次元高速集計検索エンジン

Dr.Sum EA Datalizer for Web

ブラウザ上で Dr.Sum EA のデータを集計・分析するための環境を構築するツール

Dr.Sum EA Datalizer for Excel

Excel の操作画面により、Dr.Sum EA で集計した複数の結果比較しながら自由な角度で集計分析できるツール

Dr.Sum EA DataLoader (旧 Dr.Sum EA Synchronizer)

対象となる DB のテーブルと Dr.Sum EA のテーブルのデータ同期を行うデータ連携ツール

システム構成

